

第7回教育委員会（定）

開会日時 令和8年 4月 10日（金）

午前 10時00分

閉会日時

午前 10時52分

開会場所 教育支援センター

出席者

教 育 長	長 沼 豊
委 員	小 林 美 香
委 員	野 田 義 博
委 員	善 本 久 子
委 員	山 口 謠 司

出席事務局職員

事務局次長	林 栄 喜	地域教育力担当部長	金 子 和 也
教育総務課長	久保田 智恵子	学 務 課 長	小 林 晴 臣
新しい学校づくり課長	田 中 一 誉	学校配置調整担当課長	野 崎 友 輔
施設整備担当副参事	彼 島 勲	生涯学習課長	池 田 雄 史
史跡公園担当課長	品 田 真 希	地域教育力推進課長	小 熊 大 介
教育支援センター所長	渥 美 久 枝	中央図書館長	山 田 綾 子

署名委員

教育長

委 員

午前 10時 00分 開会

教 育 長 皆さん、おはようございます。本日は4名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立しております。

それでは、ただいまから令和8年第7回の教育委員会を開会いたします。本日の委員会は1名から傍聴の申し出がなされており、会議規則第30条により許可しましたのでお知らせいたします。

本日の会議に出席する職員は、林次長、金子地域教育力担当部長、久保田教育総務課長、小林学務課長、田中新しい学校づくり課長、野崎学校配置調整担当課長、彼島施設整備担当副参事、池田生涯学習課長、品田史跡公園担当課長、小熊地域教育力推進課長、渥美教育支援センター所長、山田中央図書館長、以上、12名でございます。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、善本委員をお願いいたします。

初めに、私から報告いたします。野田義博委員におかれましては、去る3月31日をもって任期満了となりましたが、3月2日の区議会本会議での再任同意を受け、令和8年4月1日付で区長から教育委員に、再度、任命されましたので、ご報告いたします。

それでは、野田委員、ご挨拶をお願いいたします。

野 田 委 員 野田です。2期目を拝命させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

1期目で、私は、コロナ禍の最中にこの役目をいただくことになりまして、感染に対する正しい知識を身に付けて、正しく向き合うというところに尽力するとともに、各学校現場に足を運んで、現場の状況をこの教育委員会に届けるというつもりで行ってまいりました。

また、私は生命科学の研究に携わる立場として、観察の中から問いを見いだし、その問いに対して仮説を立て、検証し、振り返るという探究の積み重ねを大切にしております。教育においても、子どもたちが「なぜだろう」と問いを持ち、自ら考え、対話を通して学びを深めていくことが重要であると考えております。

2期目に入りましても、引き続き、学校現場で様々なお話を聞きながら、子どもたちと、そして教員の皆様の意見をいただき、こちらの委員会の中にその声を届けてまいりたいと思います。あわせて、保護者や地域の視点も大切にしながら、現場と教育行政をつなぐ役割を担ってまいりたいと考えております。

また、板橋区が進める教育の方向性を大切にしながら、子どもたちが自ら問いを立て、学び続ける力を育む教育の推進にも貢献してまいりたいと思います。

引き続き、よろしくお願いいたします。

教 育 長 ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。

では、次に、非公開による審議とする案件の確認をいたします。

報告（1）「板橋第六小学校改築における基本設計の策定について」は、5月

の文教児童委員会で審議を予定している案件のため、本日の教育委員会において、公開で審議を行うことにより、具体的かつ自由な討論、質疑ができないおそれがありますので、一時非公開による審議とし、議事進行の都合上、委員会の最後に処理することにご異議ございませんか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、そのように処理します。

○報告事項

2. 令和7年度グリーンカレッジ事業実施報告

(生－1・生涯学習課)

教 育 長 それでは、報告事項を聴取します。報告(2)「令和7年度グリーンカレッジ事業実施報告」について、生涯学習課長から報告願います。

生涯学習課長 「生－1」をご覧くださいと思います。
令和7年度のグリーンカレッジの事業実施報告でございます。
1が運営概要になっております。
こちらでは、令和6年度から年齢制限を撤廃し、多世代の方を対象として開講しているところをお示しさせていただいているところでございます。
2でございますが、申し訳ございません、こちらは訂正がございます。
①の1年生のところの欄でございます、R8進学者数でございますが、こちらは133とございますが131でございますので、訂正をお願いできればと思います。
次に、2年生でございますが、進学者数については177名で、卒業者数が164名というところでございました。
では、2ページ目に移らせていただきます。
次は、大学院でございますが、こちらは申込者数が50ということで、卒業者が45名という結果でございました。というところで、ご報告をさせていただきます。
あと、次に、3でございます。公開講座になります。
テーマを、今回、「地球科学」としまして、3回講座を実施したところでございます。
募集定員100名に対しまして、参加者数については83名でございました。
年代別は、以下の年代内訳のとおりでございまして、こちらは7月の夏休みの時期というところの開催時期と、また、テーマが「地球科学」というところでですかね、小学生の参加もございます、という結果でございました。
次ページからについては、グリーンカレッジの概要になっております。
こちらは、ご参考までにご覧いただければというふうに思います。
実施報告については、簡単でございますが以上になります。よろしくお願いいたします。

たします。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

野 田 委 員 ご説明ありがとうございます。グリーンカレッジ大学校および大学院において、多くの方が修了されていることは、大変素晴らしいことだと思います。

そこでお伺いしたいのですが、修了にあたっては、修了式の実施や修了証の授与は行われているのでしょうか。また、グリーンカレッジを修了したことについて、外部に示すことができるような称号や資格に類するものが付与される仕組みは、現在どのようになっているのか、お聞かせいただければと思います。

生涯学習課長 こちらは、修了された方については、卒業式を開催しまして、大学院の方、または2年生の方について、卒業式ということで開催しまして、修了証をお渡しさせていただいたところでございます。

また、卒業後については、今現在、OB会というような組織もございまして、そちらで自主学習的な活動とかを展開しておりますので、そのOB会に参加して、自主活動的な参加をされるとか、また、学んだことについて、地域の方に還元するということで、地域の方でまた活動していらっしゃるという方がいらっしゃいます。

また、大学院卒業の方では、一部の方は、新たにまた別の学科の方に入学をされて、さらに学びを深めたりというところで、学びの循環というか、そのような形で活動されています、というふうに聞いております。

学位については、特にそのようなものは発行していないというふうな状況でございます。

野 田 委 員 ありがとうございます。

教 育 長 他にいかがでしょうか。

小 林 委 員 ご説明ありがとうございます。

グリーンカレッジの方は、今、年代内訳のところ、小学生のところですね、参加されたかということですが、やはり60歳以上の方が大半ということですので、若手の方もだんだん増えていらっしゃるという感覚なのでしょうか。

講座を見ると、非常に幅広く、多様なものができるようになっていっていると思うのですが、その辺りをお聞かせいただけたらと思います。

生涯学習課長 こちらの公開講座については、昨年、そのような講座の内容で、小学生の方とか、色々と多くご参加いただいて、また、時期的なところも重なってというところかなと思っています。

どちらかというと、公開講座については、夏休みの宿題をテーマにしたりとい

うところにご活用されたのかなというふうに考えています。

一方、大学校の方については、20代、30代が、若干名、ご入学されたりというところで、やっぱり中心は、50代、60代、70代の方が中心かなという形でございます。

講座の内容なんかも含めて、色々と工夫をさせていただいているところですが、なかなか時間帯的なところで、そのような若い年代の方のご参加が少し難しいのかなというところもございますので、今後、オンラインの講座なんかも、そのようなものを広げられるように検討を進めているところでございますので、よろしくお願いいたします。

小林委員 ありがとうございました。

教 育 長 他にいかがでしょうか。

入学してから卒業する人数というのが、全員ではないわけですが、何か理由があるのでしょうか、卒業の条件を課しているのでしょうか。

生涯学習課長 やはり出席日数というところで、特に卒業試験とか、そのようなようなところはございませんが、最終的には論文というか、そのようなものを、当然、作成して、そのようなところでの内容については確認させていただくところですが、特に成績をつけたりとかいうところはないのですが、やっぱり卒業されない方については、そのような論文の提出が難しいであるとか、あと、少し出席が8割以上、出席されないと、なかなか次の学年には上がれないというところがございますので、そのようなところで難しい方がいらっしゃったかなというところがございます。

教 育 長 ありがとうございます。
他にいかがでしょうか。
よろしいですか。

(なし)

○報告事項

3. 令和8年度グリーンカレッジ事業実施概要

(生－2・生涯学習課)

教 育 長 それでは、続いて、報告(3)「令和8年度グリーンカレッジ事業実施概要」について、生涯学習課長から報告願います。

生涯学習課長 次に、「生－2」をご覧くださいと思います。
令和8年度グリーンカレッジ事業実施概要でございます。
こちらの1でございます。

1年生については、23科目から18科目を選択、また、2年生は、18科目から6科目を選択して受講ということでございまして、また、2年生については、定員に空きがある場合は、卒業生を対象といたしまして、聴講生として受け入れをさせていただいているというところでございます。

大学院では、文化文学・社会生活・健康福祉の3コースから1コースを選択して受講という形で募集をしているところでございます。

2でございます。応募者数でございます。

訂正がございまして、1年生のこちらの受講の決定者数でございますが、193とございますが、こちらは187名でございます。また、同様に、2年生の進学者数でございますが、こちらは133とございますが、131名。また、聴講生も、198とございますが、189の間違いでございます。訂正の方をお願いできればと思います。

次ページ以降は、カリキュラム等の前期講座についてお示しをさせていただいているというところでございます。

少し戻ります。大学院でございますが、文化文学コースについては、定員を超えたお申し込みがございまして、こちらについては抽選という形でさせていただいたところでございます。

そちらの抽選に漏れた方については、他の社会生活コースの方であるとか、健康福祉のコースにさらに申し込みをされて、受けられてというところでございますので、そのような意味では、お申し込みされた方、皆さんが大学院の方にはお進みいただけたというところでございます。

簡単でございますが、ご報告については、以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

今日の午後が、ちょうど入学式で、私も参列をいたしますが、よろしくお願いいたします。

区内の大学の方々にも大変お世話になっておりまして、学長さんが来られることになっています。非常に熱心に支えていただいておりますが、その体制について、生涯学習課長、お願いします。

生涯学習課長 今回、講座の開催については、例年もそうなのですが、区内の大学の方に非常に多くのご協力をいただいているところでございます。

また、今日の午後、教育長がおっしゃるとおり、今日は入学式がございまして、その場では、淑徳の学部長さんと、あと、東京家政大学の学長さんの方にご出席をいただけたというところでございますので、そのような意味では、区内の大学の方にも本当にご協力をいただいているというところでございます。

こちらの講座についての運営委員会なんかにも、そのような家政大学の先生なんかもご協力をいただいているというところもございますので、この講座の内容についても、あと、すみません、大東文化の先生も委員長としてお願いしているところでございまして、この講座の内容なんかについても、そのような先生方と

色々とまたご相談させていただきながら、運営委員会の方でも確認しながら進めさせていただいているところでございます。よろしくお願いいたします。

教 育 長 進めてください。ありがとうございます。
では、よろしいでしょうか。

(なし)

○報告事項

4. 地域学習に関する出前授業等の受け入れ校の募集について

(生－3・生涯学習課)

教 育 長 それでは、続きまして、報告（４）「地域学習に関する出前授業等の受け入れ校の募集について」、生涯学習課長から報告願います。

生涯学習課長 地域学習に関する出前授業の受け入れの募集というところでございます。
こちらは、実は２月４日の教育委員会でご報告をさせていただいたところでございますが、その際に、ふるさと文化伝承事業について、３、４年生を対象ということで通知をさせていただいたところでございますが、他の学年では行えないかというような声も多く上がりまして、そのようなところ、今までも他の学年を受け入れていなかったわけではないのですが、この募集のところで、３、４年生というようなことを書いていたことによって、もしかしたら他の学年では申し込みできないかなというところがあるといけないかなということで、今回、分かりやすく、学年要件を削除して、改めてお示しをさせていただいたというところでございます。
その他のところについては、特に変更はしておりませんが、今後、全体校長会などを通じまして、改めて周知に努めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。
以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
そうすると、基本的にはどの取組も、学年を問わず受け入れは可能ということですか。

生涯学習課長 はい。学年要件を問わずに募集をさせていただいたところでございます。よろしくお願いいたします。

教 育 長 ありがとうございます。
よろしいですか。

(なし)

○報告事項

5. 板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査の集計結果について

(地－１・地域教育力推進課)

教 育 長 それでは、報告（５）「板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査の集計結果について」、地域教育力推進課長から報告願います。

地域教育力推進課長 板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査の集計結果について、ご報告させていただきます。

「地－１」をご覧いただきたいというふうに思っています。

板橋区コミュニティ・スクール（iCS）につきましては、各学校や委員会の現状を把握し、より学校や地域の現状に即した仕組みにするため、学校、コミュニティ・スクール（CS）委員、地域コーディネーターに、毎年、アンケート調査を実施しております。

このたび、アンケート結果がまとまりましたので、ご報告をさせていただきます。

1、アンケート調査のまとめでございますが、アンケートは、学校、CS委員、地域コーディネーターの3つに分けて回答いただいております。

2、今後でございますが、この集計結果につきましては、区の公式ホームページへの掲載とともに、4月22日に開催されます全体校長会におきまして、校長に周知いたしまして、各CS委員会でフィードバックしていくというふうな流れとなっております。

内容につきまして、別紙の「資料1－2」という、横長の、集計結果（一部抜粋）というふうな資料をご覧いただければと思います。

こちらは集計結果でございますが、iCSを進めていく上で重要なポイントを抜粋してまとめさせていただいたものでございます。

先に、右上の部分について、地域コーディネーターに関するものでございます。

「支援活動実施前に学校との打ち合わせは十分に行えていると思いますか」の質問では、85.9%が「行えている」という回答をいただいております。昨年度から増加というところでございます。

また、右側でございますが、「他の団体と連携ができていると思いますか」という質問では、74.1%が「できていると思う」との回答をいただいております。こちらも、昨年度から増加というところでございます。

続いて、左上の部分になりますが、CS委員に関するものでございます。

「学校の仕組みのうち、理解しているものを全て選択してください」という質問では、勤務時間や職層の仕組み等の基本的な仕組みについて、「理解している」との回答が昨年度から増加しており、委員の理解が進んでいるということが分かるというふうに考えております。

真ん中の左下の部分になりますが、「地域とともにある学校」を実現するために必要だと思う要素についての質問でございます。

こちらは、CS委員と学校、それぞれにお伺いしておりますが、両方とも、「学校・教職員の意識」という回答が多くなっております。

また、CS委員では、熟議を重要視しているというふうな結果も出ております。

そして、その右下になります。その熟議の進行役について聞いているのが、真ん中の下の部分となります。

委員長の割合が昨年度から増えておりますが、校長、副校長以外の割合も66%ということで、昨年度から増加しております。

委員会の運営におきましては、学校管理職の異動によらない、地域の委員による主体的な運営をめざしているところでございます。

最後に、右下の部分になります。学校教職員の意識という観点では、今回、新たに追加した「熟議を実施する際に、教職員は参加しましたか」という設問につきましては、1回以上、熟議に教職員が参加した学校が91%という回答となりました。

一方、毎回、参加している学校は23%という回答でございましたので、さらなる教職員の意識の向上を図るため、この数字を高めていくというふうな必要があるというふうに考えております。

アンケート調査の概要については、以上となります。

先ほどの「地-1-1」のアンケートに調査の詳細を記載しておりますので、後ほどご覧いただければというふうに考えております。

このアンケートの集計結果につきましては、先ほど申し上げました、今後、校長会を通じて、各CS委員会でフィードバックいたしまして、今後の取組につなげてまいりたいというふうに考えております。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

野 田 委 員 ご説明ありがとうございました。

毎年、コミュニティ・スクールに関するアンケート調査を継続して実施していただいていることに感謝いたします。

これまでのアンケートについても、毎回この教育委員会の中でご報告をいただくたびに、設問の内容は十分に精査しながら進めていきたいと思います。意見交換を重ねてきたと認識しております。

その中で課題になるのは、iCS委員と地域コーディネーターの関係性だと感じています。近年は人材不足や担い手が見つかりにくいという課題もありますが、実際には両方に関わっている方もいらっしゃいます。学校支援地域本部の方がiCS委員を兼ねている場合も多いと思いますが、それとは別に、地域コーディネーターの方々はiCSができる前から学校を支えてこられた方々です。そこにコミュニティ・スクールができ、さらに地域の方々が学校運営に協働して参画して下さる形になってきているわけですが、それぞれの立場や役割の理解が、まだ混在している部分があるように感じています。

その結果として、今回のアンケートでも、同じ方が両方の立場で回答している可能性があるのではないかと思います。それぞれの立場で回答していただくこと自体には問題はありませんが、今後、回答を求める際や集計する際には、そのあたりの整理についても確認していただければと思います。

また、新たに示していただいた「教職員は参加しましたか」という学校側の項目についてですが、年5回のうち1回は教職員との協議の機会を設けているはずですので、68%という数字はやや低い印象を受けました。つまり、実施されていない学校がある可能性も考えられるため、その点は少し確認された方がよいのではないかと感じました。

多くの教職員に集まっていただく必要があるため、年1回実施するのが現実的な限界なのかもしれませんが、その機会は、教員の立場から学校の在り方や子どもたちの状況について、地域や学校の実情に応じた意見をiCS委員の方々と交わすことのできる大変貴重な場だと思います。そうした意味でも、この割合は少し低く感じましたので、iCSにおいても、そのような機会を積極的に取り入れ、学校からの困りごとをiCSを通じて発信できる形を整えていただければと思います。

そして、地域や保護者がiCSを頼れる体制づくりこそが、iCSの役割の一つであると考えています。その理解をさらに深めていただき、今後、新たに関わる方々に対してiCSの説明を行う機会もあると思いますので、そうした場を通じて、役割や意義について丁寧に周知していただければと思います。よろしくお願いいたします。

地域教育力推進課長

ありがとうございます。

まず、最初の項目のアンケート内容の精査という部分でございますが、いわゆるその両方を兼務されている方ですとか、様々なケースがあるというふうに思います。その辺は、いわゆる実態をいかに反映するといいますか、把握するという観点で、今後、さらに更新をかけていきたいというふうに考えております。

また、続いて、教職員ですとかの参加の部分、あるいは学校の悩み事という部分につきまして、そちらをいかに地域の方に、問いかけるといいますか、につきましては、こちらも、実際、この制度自体がそれをめざしているところでございますので、その辺り、検証も含めて、その構築の仕方というのは、今後も考えてまいりたいというところでございます。ありがとうございます。

教 育 長

他にいかがでしょうか。

小 林 委 員

アンケート並びにご報告ありがとうございます。

資料の方の「1－2」の一部抜粋の方を拝見しておりまして、「地域とともにある学校」の実現に最も必要だと思う要素のところがございますが、やはりCS委員さんと学校の違いというのがすごくよく分かるところかなと思って拝見しておりました。

特に太枠にしてくださった熟議のところは、CS委員さんはすごく重要と思っ

ているのですが、学校さんの方は7%ということで、逆に、3番の方の地域の特色を生かした教育活動のところは学校の方がもう少しというふうに思っているように思います。

この辺り、地域と学校の差というものが非常に分かって、地域で先生方をサポートするにはどうしたらいいかというヒントが隠されているように思うのですが、この格差についてはどのようなご見解なのか、お話を伺えたらと思います。よろしくお願いいたします。

地域教育力推進課長

まず、委員がおっしゃっていただいたように、意識という部分では共通しておりますけれども、この②、③といいますか、ここで学校とCS委員さんの見解が分かれているというところだと思います。

実際、この中で、もう少し詳しい調査といいますか、確認というのは必要だというふうには思っておりますけれども、実際、このようなところで、認識の違いなのか、あるいは、よりどこを進めるのかという違いもあります。

そのような点も含めて、熟議も含めてということになりますけれども、どのようなやり方がいいのかというのは、今後、各学校さんに考えていただく中で大事な部分だと思いますので、少し研究ということになりますけれども、考えさせていただければというところでございます。

小林委員

よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

教 育 長

他にいかがでしょうか。

善本委員

ご説明いただきまして、ありがとうございました。

本当に地域の力が、学校にとって色々な意味を果たしているということが実感できる内容だったと思うのですが、1点だけ、少し気になったのは、問の20番に関連するところで、地域の力を活用することで、業務量の負担が減ったと感じているかということに関して、管理職の先生は、令和6年度にはこの設問はなくて、令和7年度の質問では、校長も、副校長も減ったと感じている人が多い。特に業務量が過多であると考えられている副校長が減ったと感じている人の割合が校長よりも多いので、これは望ましいことだなというふうに感じています。

一方で、昨年も聞いていた、校長、副校長を除く教員についての質問は、「減った」という回答が大幅に減っていて、少しこの辺も大きいなと思っています。

昨年は「減った」と答えた人が67.4%いたのが、今年は、過半数を切っているということで、この変化は少し、1年でのその変化は、丁寧に分析をした方がいいかなというふうに思っていて、次の質問で、何が具体的に減りましたかということは、ここに答えがあるのですが、減っていないものは何が減ったと回答としてしづらいなのですが、減ったと感じている人は、令和6年度は3分の2以上いた、でも、令和7年度は減ったと感じている人が半分を切ったというところの変化についての分析を、次年度以降のアンケートの中で少し工夫していただ

いて、管理職の先生方、特に、最も業務時間量的に負担の大きい副校長先生が「減った」と答えてくださっているのはすごくいいことだと思うのです。

その他の一般の教職員にもその意識が広がってくれるといいなと思うので、そうになっていないというか、少しそうになっていない部分については、丁寧に分析していただけるといいかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

地域教育力推進課長 この設問につきまして、去年は、この「校長・副校長を除く」というのがなく、広くお伺いした。それが、除いた瞬間に数字が下がったというところのご指摘かというふうに思っております。

25ページのQ20-2の項目でございますけども、この括弧書きの部分、この「校長・副校長を除く」を入れたことによってこれだけ変わってしまうということについては、丁寧な分析が必要というふうに思っておりますので、少し、ここについてはまた研究させていただければというところでございます。

教 育 長 よろしいでしょうか。

野 田 委 員 今のお話を伺っていると、結局のところ、この「業務量負担」という点について、具体的に何をもって業務量とし、また負担として認識しているのかが、このアンケートからはやや読み取りにくいと感じました。そこにかかる時間なのか、体力的な負担なのか、あるいは精神的な負担なのか、その内訳が見えにくいという印象があります。

また、この設問を設定するにあたっては、これまで「やりがいが上がったかどうか」という点についても確認してきたはずですが、今回はその点との関係が十分に見えにくくなっているように感じます。やりがいを感じていれば、一定の業務量があっても負担としては捉えにくい場合もあると思いますし、逆に負担と強く感じているということは、その業務に対してやりがいを感じにくくなっている可能性もあるのではないかと懸念しています。

この点は毎回の課題でもあり、やりがいに関する状況をどのように把握し、現場から必要な情報を抽出していくのが重要になってくると思います。私としては、負担や時間といった要素だけを、直ちに働き方改革の推進と結び付けて考えるべきではないと、これまでも申し上げてきました。設問が偏ると回答も偏りやすくなり、場合によっては、アンケートでその点を意識させることによって、かえって負担感を強めてしまうこともあるのではないかと感じます。

また、このアンケートに回答すること自体が、現場の方々にとって一定の時間的負担になっているというお話も伺っています。せっかくこのような機会を設けるのであれば、貴重な機会として、できるだけ多くの必要な情報を抽出できるアンケートとなるよう、引き続きご検討いただければと思います。よろしくお願いします。

地域教育力推進課長 ありがとうございます。

いわゆる質問の工夫といいますか、回答しやすい、あるいは回答の誘導といいますか、少しそのような工夫というのが必要だと思いますので、その辺りの設問の設計というのは今後も考えてまいりたいというふうに考えております。

教 育 長 他にいかがでしょうか。

山 口 委 員 地域と学校の関係とか、色々、ありがとうございました。

区内結構広いので、地域によって差があるような気がするのですが、そのようなことに対してのアンケートというのは取られていらっしゃるのでしょうか。お願いします。

地域教育力推進課長 地域差といいますか、そのようなところが、一つ一つの設問等を見れば、分析というのはできる部分があるかと思いますが、このアンケート上で、はっきり分かるというのは、少しまた、現状では少しそのような面が見づらい部分があるのかなと思いますので、その辺りも今後の工夫ということで考えさせていただければと思います。

山 口 委 員 よろしく願いいたします。ありがとうございます。

教 育 長 他にいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

私から、この概要版、一部抜粋版の方なのですが、左上のＣＳ委員のところで、「学校の仕組みのうち、理解しているものを全て選択してください」という設問があって、これは、グラフには①から⑤まであるのですが、左側を見ると、どういう設問だったかというのは③までしかありませんね。

本編の方を見ると、④、⑤は書かれていて、教育課程に関わることだと思うのですが、ここにも書かれていた方がいいと思います。低いから書かないというのは少しまずいと思うのですが、④、⑤が低いことの分析はあるのでしょうか。

地域教育力推進課長 ④が「教育課程の編成の仕組み」で、⑤が「教職員の異動の仕組み」というところでございます。こちらの分析はなかなか進んでいない部分がございますけど、今後、少しその辺りも課題として考えてまいりたいというところでございます。

教 育 長 はい。ぜひ、この資料の作りとして、項目としては、書いておいた方がいいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

では、よろしいでしょうか。

(なし)

教 育 長 次に、教育委員会次第にありませんが、追加報告事項はありますか。

(なし)

教 育 長 なければ、先ほど申し上げましたように、報告 1 については、非公開として聴取いたしますので、傍聴人の方は退席願います。ありがとうございました。

(傍聴人 退席)

○報告事項

1. 板橋第六小学校改築における基本設計の策定について

(新－1・新しい学校づくり課)

教 育 長 それでは、報告事項の聴取を続けます。報告（1）「板橋第六小学校改築における基本設計の策定について」、新しい学校づくり課長から報告願います。

新しい学校づくり課長 それでは、「新－1」の資料をご覧ください。

「1－2」の基本設計書もあるのですが、そちらの方は、適宜、ご覧いただければと思いますので、こちらの方で説明をさせていただきます。

まず、設計コンセプトになります。

こちらの方は、まず、「新しい体験・経験の場をつくる」というところで、教室の方向性を、前後を固定しない、方向性のない教室をつくっていきます。

これまでの標準的な特別教室の準備室と空間等を見直して、共用部とも連携が可能なスペースとしていく。

具体的に言うと、図に出ておりますけど、理科室と理科室の間も空間を設けて、そちらの空間もうまく使って授業をしていく。

例えば教室ですと、ロッカーを固定しない、ロッカーを廊下に出して、教室を広く使うこともできますし、ロッカーを仕切りにして、廊下の半分まで使って、もっと広く使うといったことも可能かなと考えております。

続いて、「一人一人に寄り添った場所をつくる」というところで、自由に使える空間として、「デン」と呼ばれる空間、オープンスペースを設置していきます。

アンケート調査やワークショップでも、子どもたちの方から、本を読める場所が必要だとか、リラックスできる場所が欲しいとか、そのようなお話がありましたので、こちらの方の空間として、オープンスペースを、2階から4階までが教室の空間なんですけど、そちらの方の全てにオープンスペースを配置するようなことをしています。

続いて、次のページで、「小学校と地域みんなが使いやすい場をつくる」というところで、少し全体の図面がないとなかなか、1階にピロティを設けます。エントランスホールを隣に設けて、広く開放的な場をつくっていきたいと思っております。

地域と様々な交流が生まれるような場にして、げた箱なんかも廃止して、一足制として、外履きのまま教室まで行けるようにして、よりオープンな場としてい

きたいと考えています。

続いて、「学校全体を最大限活用する」といったところで、子どもたちがほっと一息ついたりとか、友達と遊んだりできるという屋上スペースをつくっていくとともに、オフシーズン、運動スペースとして利用可能な屋内プールが5階にあるのですが、夏場はプールなのですが、下の床を上げるというか、可動式の床が上がって、そこに支えをつくると、その上が運動スペースとして使えるというような工夫をして、子どもたちが利用できるスペースを拡大していきます。

次に、「先生にとって居心地の良い環境をつくる」というところで、1階の校務センターを造っていくのですが、フリーアドレス対応として、働き方に合わせて、レイアウトが変更可能なしつらえにしたいと考えております。

カウンターを設けて、カウンターにある執務空間の中に職員のラウンジなんかを設けて、適宜、先生たちが休憩できるようなスペースもつくって、先生が働きやすい環境を整えていきたいと考えております。

あと、「環境に配慮した建物をつくる」というところで、北側、外壁はダブルスキン、壁を2つ造って、その間の空間に空調の室外機を置くようにします。各教室近くに配置することで、今までは屋上に一斉に室外機をまとめていたのですが、配管が短くなることで空調のロスを低減していきます。

あと、南側の外壁には、直射日光による熱負荷の低減と、あと、道を隔ててマンションが建っていますので、向かいの建物との視線をコントロールするための縦のルーバーなんかを配置していきます。

続いて、3ページ目の計画概要については、基本構想・基本計画のご報告と同じように、地上5階建てというところで、延べ床面積が1万900㎡以上というところで、高さの最高値が22.16m、こちらの方になります。

続いて、3の配置計画については、下の方に、全体の図でいくと、向かって左側があいキッズのスペース、ピロティを挟んで、右側がエントランスホールがあって、校務センター等があるというところで、あと、上の方に校庭があるのですが、こちらは人工芝、今でも人工芝で変わらず人工芝なのですが、直線距離で50m、トラックで100m、こちらは今と変わらずに、そのスペースは確保する予定。

人とか、車両とかの出入りも、現在と同じような出入口を想定しています。

続いて、4、平面図ですね。2階に体育館アリーナを設けて、普通教室については、2階から4階までというところで、最大24室を確保する。これは児童数の推移予測、今は14室ぐらいなのですが、最大24まで、周りにマンション等ができていくということで、そこまでいくというような予測が立っておりますので、最大値の24を確保する予定です。

そのため、音楽室とか、理科室を2部屋、4階、5階ですけど、音楽室、理科室を2部屋設ける予定になっています。

5階の方は、屋内プールと、向かって左側が屋上スペースというふうになっています。

5ページ目が、外観イメージが、南側、北側、鳥瞰図がありますので、こちら

の方はご覧いただければと思います。

次が、6断面図になりますが、こちらの方は、エレベーターを設置する予定ですので、各階へのアクセスを容易にするとともに、バリアフリーで移動することができるようになるかなと考えております。

最後、7の工事スケジュールになります。

今年度、実施設計を行って、9年度から第Ⅰ期工事がスタートします。

先に新校舎の方の建設が始まる。Ⅰ期工事が完了後、新校舎に引っ越しをして、既存の校舎を解体していく。Ⅱ期工事として、あいキッズ棟、向かって左側ですね、あいキッズ棟とか体育館とか、そちらの方が造られていくというようなところになります。その後、全てを解体して完成。

その間、体育館が使えない期間が、令和12、13、14年と、3年間予想されるのですが、そちらについては、5階の屋内プール、そちらの方の床を上げて、運動スペース、体育館の代わりとして使うことを想定しています。なので、プールの授業については、その3年間は休止というふうなことを想定しております。

説明は以上です。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

小 林 委 員 ご説明ありがとうございます。

伺ってしまして、小学校と地域みんなが使いやすい場をつくるということで、一足制を取り入れられるというお話があつて。学校に行くと必ずげた箱がばつとあつて、視界がいつも悪いなと思っていたのですが、あれがなくなって、非常に開けた空間ができるのではないかと思います。

他の学校でもでもだんだん一足制に移行する予定はあるのですか。

新しい学校づくり課長 そうですね。どこでも取り入れられるかという、なかなか、一応衛生面とかを気にされる方も多いので、よくも悪くも、東京だと、周りがコンクリートが多いというのがあります。

ただ、校庭が土だったりするので、そのまま外に行く、そのまま帰ってくるとなると、泥汚れがつくというところで、基本的には、周りがコンクリートであつて、校庭が人工芝みたいところを、条件としています。

例えば、上二小はこれからやりますが、そこは長寿命化改修ですけど、あれを機に人工芝にして、一足制を取り入れたいという意見もありますので、そのような流れとしては、一足制の方に傾いているのかなという気はします。

教 育 長 他にいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

私からは、私が教育長に着任してから、実質的に初めて建築に関わるものですので、前課長とやり取りをして、最初に説明をしてもらったコンセプトなどにも私の考えを反映してもらっています。

幾つかあるのですが、例えば最初の設計コンセプトのところに書かれているように、従来の教室という仕組みにとらわれず、特に新しく授業スタンダードSのセレクトの形、子どもたちが自由に自分のペースを調整したり、方法も選べたりという授業がこれからますます進みますので、教室の造りも、レイアウトを変えられるような形にするということが1つ。

それから、造ってから30年、40年たって、40年後の教育はどうなっているのか分かりませんし、子どもの数も分かりませんので、動かしやすいということです。壁も抜きやすい、そういう構造にしてほしいという要望を出しましたが、そういうのも反映されています。

それから、学校も多機能化していくということ。学校は学校教育だけを行う施設ではなくて、ここにも書かれていますが、地域の皆さんと一緒に何かをつくり上げていくような、そういう可能性も秘めた、うまく使えるような形にするということです。

それから、オープンスペースです。子どもたちが少しリラックスできるような、そういうものも設けるといことで、これも書かれているとおり、入っています。

それから、これからの新しい学校建築ではプールは要らないのではないかと、学校外の色々なところに行ってプールの授業をすることも考えられるのではないかとというやり取りもしました。

結論としては、ここは造っておく。ここに造って、逆に、ここが拠点となるようにして、他の近隣の学校が老朽化でプールが潰れても、ここに通ってくるという発想があるということで、あえて造りました。

ただ、造った以上は、ランニングコストもかかりますので、先ほど課長から説明があったように、プールではない時間ができる形、これは最新の技術だそうですが、こういうのを取り入れる建築計画を立てました。これは特色の一つです。そのようなやり取りもしながら、今、ここまで来ているということです。

子どもの人数も、一旦、増えますが、また減るということが予想されますので、教室以外のものに転用可能な形にするということも盛り込んでいます。このように、今の時点で考えられる最高のものを、私としては設計してもらったと捉えておりますが、補足があれば、新しい学校づくり課長、お願いします。

新しい学校づくり課長

今、オープンスペースの活用という話があったのですが、4の平面図、4ページ目ですが、例えば3階、4階にオープンスペースというのが上の方にあるのですが、教室に並んでオープンスペース、このスペースは、教室と全く同じ面積を持っていますので、万が一、24教室を超えた場合でも、26まで対応できる。

逆に、少なくなればなったで、ここは教室と同じスペースありますので、フレキシブルに使えるのかなというようなところも考えております。

以上です。

教 育 長

ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。

(なし)

教 育 長 では、以上をもちまして本日の教育委員会は閉会いたします。ありがとうございました。

午前 1 0 時 5 2 分 閉会